

『財政政策とマクロ経済の関係性』

森田 雄一

(経済学研究科 教授)

morita@econ.nagoya-cu.ac.jp

1 これまでの研究概要

筆者(森田)はこれまで財政学を中心とした研究を行ってきました。財政学という研究分野は比較的取り扱うテーマの範囲が広いと言われていています。例えば税の問題、社会保障の問題、格差の問題、景気の問題など実に広範囲の議論が行われます。その中でも特に私が関心を持って取り組んできたのは、財政政策がマクロ経済全体にどのような影響を及ぼすのかという点です。より具体的な研究テーマは以下の通りです。

【公共資本整備に関する研究】

公共資本の供給は究極的には民間資本との資源の取り合いの結果として実現されます。したがって公共資本をどの規模で、どのような分野に供給していくかを決めることは民間を含めた経済全体の成果に大きな影響を与えることになります。経済成長率を高めるため、また経済厚生を最大にするための方法を検討してきました。

【高齢化に関する研究】

我々の社会が直面している重要な問題に高齢化があります。高齢化は単に人々の平均年齢をあげていくだけではありません。財政的には支出および収入構造を変化させます。またマクロ経済的には労働市場や技術進歩率に大きな影響を与えます。高齢化が都市の財政収入に与える影響、経済活動に与える影響について分析してきました。

【財政再建・行政効率化に関する研究】

これからの自治体のあり方については様々な分野、角度から議論が行われてきています。そしてそれらが一つの形として表出したものが平成の大合併でした。合併に至った自治体、合併を行わなかった自治体ではどのようなことが起こっていたのかということについて全国自治体にアンケート調査を行い、定量的な分析からその傾向を検討しました。また財政の維持可能性について国レベルの分析を行いました。

2 今後の研究

今後の研究テーマとして現在着手しているものは、ソーシャル・キャピタルに関する研究です。災害等や高齢化に伴う地域弱体化への対応としてソーシャル・キャピタルが注目されています。相互の信頼関係、社会規範やルールなどに代表されるソーシャル・キャピタルは、家族のあり方や役割、働き方の多様化などの社会環境の変化への対応力を持つと同時に、財政的な予算措置をあまり必要としないという特徴を持っています。円滑な社会、経済活動のためのソーシャル・キャピタルのあり方を探っていきたいと思っています。